

令和元年5月4日の降雹に係る当面の技術対策

令和元年5月7日

埼玉県農林部

なし

- 1 被害果実は原則として摘果する。果実の状態をよく確認し、無傷なものを残すよう2～3回に分けて摘果する。

被害程度による、摘果の目安は次のとおり。

被害程度 (%)	摘果の目安
90～100	全部摘果する。
70～89	標準着果量の2～4割を残す。
50～69	標準着果量の4～6割を残す。
30～49	標準着果量の6～8割を残す。
30未満	標準着果量とする。

- 2 新梢に損傷がある場合は、折れた枝などを整理するのみとする。
- 3 病害の発生を防止するため、農薬を散布する。ただし、気温が高いときには、薬害の恐れがあるため注意する。

【防除例】

ベルコートフロアブル 1500倍 200～700ℓ/10a (収穫14日前まで、5回以内)

デランフロアブル 1000倍 200～700ℓ/10a (収穫60日前まで、4回以内)

- 4 落葉が激しい場合は、樹幹の日焼け防止のためホワイトンパウダーを塗布する。
- 5 施肥は、被害直後は原則として行わないが、被害の程度により次のとおりとする。

被害程度 (%)	施肥(葉面散布)の実施
90～100	樹勢回復のため、新葉の展開時に葉面散布を行う。
50～89	樹勢回復のため、葉面散布を行う。
49未満	葉面散布は行わない。

【施用例】

メリット(青) 500倍 150～200ℓ/10a 5～7日おきに3回

ぶどう

- 1 折損した新梢は、折れた部分まで切り戻し、新芽の発生を待つ。
- 2 使用可能な副梢は極力使用し、樹勢の回復に利用する。
- 3 花穂が損傷している場合、損傷部分のみを摘除する。

無核栽培では、できるだけ房尻を使用した房づくりを行い、損傷程度に応じて、副穂や支梗を利用する。

有核栽培では、できるだけ多く房づくりを行い、結実の状況を確認後、最終的な着

房数を決定する。

- 4 ベと病や灰色かび病の感染を防止するため、農薬を散布する。ただし、気温が高いときには、薬害の恐れがあるため注意する。

【防除例】

オーソサイド水和剤 80 800倍 200~700ℓ/10a (収穫30日前まで、2回以内)

- 5 落葉が激しい場合は、樹幹の日焼け防止のためホワイトパウダーを塗布する。

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を確認し、適正に使用してください。
- 2 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。